スポーツアナリストの育成

1　目　的　　選手のプレイやコンディション、戦術など、さまざまなスポーツデータを収集・分析し、選手およびチームを勝利に導くことのできる選手を育成する。また、本取組をとおして課題を発見し、必要なデータを見出し、それらを適切に収集・分析する力、分析結果をもとに改善策を提案する論理的な思考力や、自身の考えを他者に分かりやすく伝えるための表現力を養う。

2　概　要

(1) 対象と学習活動

新１年生：夏季休業中の集中講義を受講し、各部活動の２・３年生のデータ分析を補助する。
※授業（総合的な探究の時間）内での実施なし

新２年生：夏季休業中の集中講義を受講し、各部活動においてデータ収集を行う。また、２学期以降の Project G において、課題設定、データ収集・分析・可視化、チーム（個人）の改善策の提案を行う。

新３年生： Project V において、昨年度に考案した改善策を実施し、チームの変容を分析、スポーツ分析のレポート作成を行う。また、２学期以降は各教室で大学入試に向けて活動実績報告書を作成する。

(2) 全体計画　　：スポーツアナリスト独自　　：３年生共通（各教室で実施）

	１年生	２年生	３年生
４月			チームの変容の分析
５月			レポート作成
６月	※参加希望調査	※参加希望調査	↓
７月	**集中講義**・各自データ収集	**集中講義**・各自データ収集	活動報告書について
８月	↓	**データ収集報告会**	アドミッションポリシーを知る
９月	↓	**スポーツ分析講義**、課題設定	活動実績報告書の作成
10 月	↓	データ分析・可視化	↓
11 月	↓	**分析結果・考察の発表**	↓
12 月	↓	（修学旅行）	↓
１月	↓	改善策の考案・発表準備	振り返り
２月	↓	**中間報告会**	
３月	↓	**文化祭ステージ発表**	

※１・２年生希望者を対象に、夏季休業中にスポーツアナリスト養成講座（集中講義）実施する。

(3) 指導・助言

日本経済大学　経済学部　健康スポーツ経営学科　船戸 渉　准教授

3　実施計画（案）　　※新１年生はスポーツアナリスト集中講義参加後、各自の活動とする

(1) 新２年生　　□：船戸准教授による講義や講評を希望

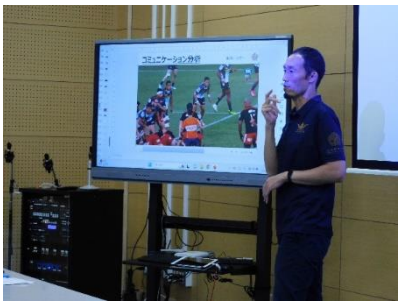
回	日　程					内　容
特	7	月	?	日	?	スポーツアナリスト集中講義
1	8	月	28	日	(木)	データ収集報告会
2	9	月	18	日	(木)	チームの課題、探究テーマの検討
3	9	月	25	日	(木)	スポーツ分析に関する講義
4	10	月	9	日	(木)	データ分析・可視化
5	10	月	23	日	(木)	データ分析・可視化
6	10	月	30	日	(木)	データ分析・可視化
7	11	月	6	日	(木)	チーム（個人）の特徴の考察
8	11	月	20	日	(木)	分析結果・考察の発表
9	11	月	27	日	(木)	分析結果に基づく改善案の立案
10	2	月	5	日	(木)	分析結果に基づく改善案の立案
11	2	月	16	日	(月)	中間報告準備
12	2	月	19	日	(木)	中間報告準備
13	2	月	24	日	(火)	中間報告会
14	2	月	26	日	(木)	振り返り、筑紫祭発表準備
3 月 13 日(金)・3 月 14 日(土)　筑紫祭ステージ発表・成果物展示						

(2) 新３年生

回	日　程					内　容
1	4	月	14	日	(月)	（各教室）総探オリエンテーション
2	4	月	17	日	(木)	チームの変容の分析
3	4	月	24	日	(木)	チームの変容の分析
4	5	月	1	日	(木)	チームの変容の分析
5	5	月	8	日	(木)	レポート作成について学ぶ
6	5	月	22	日	(木)	レポート作成
7	5	月	29	日	(木)	レポート作成
8	6	月	5	日	(木)	レポート作成
9	6	月	12	日	(木)	レポート作成
10	6	月	23	日	(月)	レポート作成
11	7	月	3	日	(木)	スポーツアナリストの活動振り返り
7 月 14 日以降、各教室にて活動実績報告書の作成を行う						

※完成したレポートを船戸准教授に送付し、指導・助言をいただく。

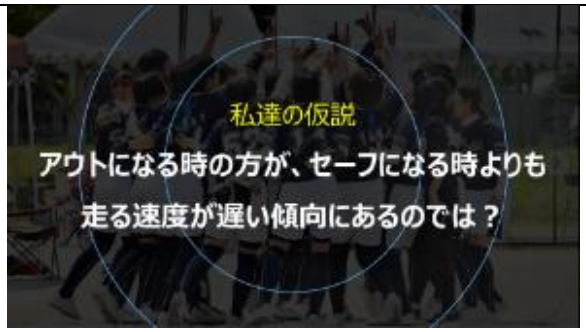
4　令和６年度スポーツアナリストの育成　活動の様子



5　令和６年度高大連携研究協議会発表資料（概要）

❶探究テーマ

ヒットにつながるバッティングの少なさに足の速さは関係しているのか



❷仮説

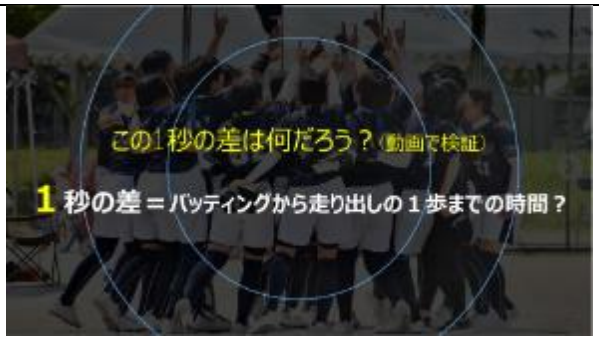
アウトになる時の方が、セーフになる時よりも走るのが遅いのでは？

選手	A	B	C	D	E	F	G	H	I	平均
平均(秒)	3.43	3.42	3.48	3.48	3.41	3.17	3.49	3.55	3.55	3.45
最遅(秒)	4.03	3.75	3.98	4.00	4.00	3.43	3.91	3.97	4.00	3.90
最速(秒)	2.82	3.04	3.19	2.83	2.83	2.57	2.91	3.19	3.03	2.93
セーフ時										
平均(秒)	3.36	3.28	3.61	3.74	3.39	3.07	3.56	3.46	3.57	3.45
最遅(秒)	3.69	3.66	4.01	4.15	3.82	3.51	3.62	4.03	3.74	3.80
最速(秒)	3.17	2.98	3.10	3.27	2.78	2.53	3.41	3.02	3.12	3.03

❸データ収集・分析

アウト時・セーフ時での１塁到達時間を比較したが、差が見られなかった。しかし、各選手の最速・最遅には１秒の差があった。

１秒というと短いと思うかもしれないが、ソフトボールの塁間距離は 18.29m で、高校 2 年生（女子）の 50m 走の平均タイムが 8.89 秒であることを考えると、単純に走るだけなら、3.25 秒で到達する計算になる。このため、この１秒の差はバッティングをヒットにつなげるうえで非常に重要であると考えた。



❹練習の改善案

バッティングの様子を撮影し検証すると、バットを振ってから走り出しの１歩までに時間がかかっていることが分かった。

そこで、今後はバッティングから走り出しまでの動きを洗練する練習を取り入れ、変容を分析していきたい。

6　令和６年度スポーツアナリストの育成　参加生徒の活動をとおして感じたこと（抜粋）

・データを取って分析することはとても難しいことだと思っていたけど、いざ活動してみると熱中してしまうくらい面白かった。
・スポーツアナリストの活動をとおして、チームを客観的に見ることができるようになったし、チームに足りていない部分を再確認することができたのでよかった。
・データを自ら調べることで、自分の動きの課題やチームの課題に気付くことができました。
・自分が知りたいと思って集めたデータだけでなく、分析を進める中で、これまで気付けなかったデータにも気付くことができた。
・なかなかデータを集める環境が整わないので、大まかなデータしか集められないのが悩みです。
・普段何気なくやっていることを改めて振り返って動きなどを確認することで、味方の動きの癖などを細かく確認することができた。
・（サッカー）ボールを支配するだけでなく、それをどう攻撃に結びつけるか、守備にどう生かすかを考えることができた。
・サッカーへのいろいろな視点が見つかるとともに、たくさんの技術・メンタル面での課題が見つかりました。このスポーツアナリストの活動で出た課題を普段の練習で克服していき、試合を有利に運びたい。